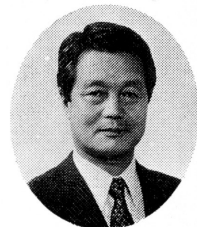


農業の変革期を 迎えて思うこと

チッソ旭肥料株式会社

代表取締役社長 早 水 清



新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、読者の皆様方にとり、本年が実り多い年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年は内外で大きな問題が起こり、一年がアッと言う間に過ぎ去ったような感があります。湾岸戦争は、アメリカが終始リードしたものの、国連が歴史上始めてその力を発揮して、比較的短期に終息したのは何よりでした。ソ連では市場経済体制への移行が成功せず、民族問題に発展し、多くの共和国が独立し、独立国家共同体への移行が確定しました。そして今、もっとも援助を必要とする国がロシア共和国やその他の共和国になるとは、時代の変化の早さに驚くばかりです。

又、国内経済は長年続いた好景気が「バブル」と消え、景気減退期に入ったと報道されています。本年は国内的にも、国際的にも日本の実力が問われる年になりそうです。

農業界では収穫期の日本列島を襲った台風17～19号が、各地に多大の被害を残しました。野菜の緊急輸入が行われ又、本年度は水田減反緩和などが行われますが、被害に遭われた方々の一日も早い再起を祈念申し上げます。

ウルグアイラウンドの行方は各国の農業情勢の違いを孕みつつ、関税化の方向に踏み出そうとしています。しかし、米の市場開放については、日本の立場を強く主張すべきものと思います。

現在、品種改良によるおいしい米作りや、栽培規模の拡大によるコストダウンなどの努力が実を結びつつあり、日本の米作りも新時代に入ったものと感じております。

また、肥料では“環境にやさしい肥料”といわれるように、農業の生活環境に及ぼす影響も議論されるようになりました。これらの農業の変化は新しい肥料、新しい施肥技術、栽培法を生み出す

原動力になるものと予想されます。

ご承知のように、弊社は、長年の研究開発の中から、時代を先取りした機能性商品コーティング肥料（LPコート®、ロング®）を上市し、ご利用いただけるよう努力してきましたが、緩効性チッソ肥料「CDU®」と共に、施肥省力効果に加えて“環境にやさしい肥料”としても、ようやく多くの皆様の注目を集められるようになって参りました。また、硝酸系化成肥料「磷硝安加里®」、泡状化成肥料「あさひポーラス®」、棒状打ち込み肥料「グリーンパイル®」、バーミキュライト床土用資材「与作®」、微生物資材「バイオマザー®」など特色ある商品を開発、販売して参りました。

私共は、変革期を迎えた農業に求められる技術改革の方向を見定めて、これら商品に一層の改良を加え、また新しい商品の開発を行い、ご期待に沿いたいものと念願しております。

発刊以来、皆様に親しまれて参りました本誌「農業と科学」も、内容の充実化をはかり、新しい農業技術や栽培事例の紹介を行い、農業の発展にいささかでもお役に立ちたいと思っております。

本年も、変わらずご愛読いただきますと共に、ご執筆等を通じ、積極的なご意見、ご批判を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご繁栄を心からお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

(12月20日記)